

おおぞみ



広報 No.189

KOHO OGIMI 2010年 12月号



大宜味

「健康長寿の
いきいき輝く
文化の村」



大保川上流を再現して 後世に伝えるべきもの

森と湖に親しむ旬間

第1回大保ダムまつり

「森と湖に親しむ」を

キャッチフレーズに、ダム事

業のPRを図ろうと第1回

大保ダムまつり(主催:大保

ダムまつり実行委員会)が

10月31日(土)、大保ダム広

場をメイン会場として開催

され、村内外から約100

0人の行楽客が詰め掛け賑

わいをみせました。

まつりでは、琉神マフヤー

シヨウや古謝美佐子ステー

ジ、紙飛行機飛ばし大会な

どのステージ企画をはじめ、

カヌーや丸太切り体験、木

炭窯だし体験など子どもか

ら大人まで楽しめる体験

コーナーも設けられました。

また、大保川上流を再現

してつくられた半島部人工

河川(学習の川)への放流が

行われ、ウォータースライ

ダー(滑り台)では多くの子

どもたちが楽しそうに遊ぶ

姿がありました(表紙)。

オープニング セレモニー

セレモニーは、喜如嘉小学校獅子舞クラブによる獅子舞の演舞と村青年会によるエイサーで花が添えられ、記念すべき第1回目に相応しい幕開けとなりました。

まつりアナウンスは今年、活躍が光った辺土名高校放送部の野里朱美礼さん(謝名城区)と仲村和香奈さん(塩屋区)が担当し、運営に協力してくれました。

大保ダムまつり実行委員会委員長を務める島袋村長は「大保ダムは森の環境を守りながら、環境に配慮して建設され、世界的にも評価の高いダムとなっています。村民の手でつくりあげたという自覚を持ち、みんなの思いが詰まったダムを地域経済の活性化につなげていきたいと考えています。

今日のまつりではたくさんさんのプログラムを用意していますので、みんな楽しんでいきましょう」と来場者に呼びかけました。

セレモニーの最後は、ダムの安全と、村の益々の繁栄を村特産品であるシークワサーを絞ったジュースに込めて、村老人クラブ連合会会長の新城繁正さんの音頭で来場者と一緒に乾杯しました。



村青年会による勇壮なエイサー



大迫力の獅子舞演舞



あいさつを述べる島袋村長



子どもたちも楽しくプレー



力強いスイングでナイスショット

大保ダムのさわやかな環境の中で参加者相互にふれあいの和を広げ、大保ダムまつりを盛り上げようと、ふれあいグランドゴルフ大会(主催 大保ダムまつり実行委員会)が同日、大保ダム内多目的広場で開催されました。

爽やかな秋晴れに恵まれたこの日、村内各字の老人会から地域の子ども達まで、幅広い年齢層から14チームが参加。1チーム6名で構成され、全12ホールを回り、心地よい汗を流しました。

広場は芝の状態が深く、ボールがあまり転がらず、参加者を悩ませる場面もありましたが、経験者は慣れてくると芝の状態を見極め、すくい上げるようなアプローチングで見事なショットを連発していました。

参加した子ども達の中には、今日が初めてという子もいましたが、プレー後は「楽しかった」と一様に声を揃えました。

表彰式は、まつりステージ上で行われ、上位3位の団体及び個人の表彰に加え、長寿の里大宜味村ならではの「ちやーガンジユで賞」などの特別賞も設けられました。個人戦で優勝した知念亀次郎さん(塩屋区)は、「芝が深くと思うように、プレーするのが難しかったが、毎日練習しているので、その成果が出たと嬉しそうでした。

グランドゴルフ大会

体験コーナー



ダム湖でゆっくり自然を満喫。「カヌー体験」



丸太を切って、木との触れ合い。「丸太切り体験」



目で見て、手で触れて。「木炭・窯出し体験」



やんばるの写真展や、大保ダムの自然などを紹介。内容充実の「資料館の展示」



どうなっている、ダムの中。参加者は興味津々。「ダム監査廊見学会」

ステージイベント



遠くまで届け 紙ヒコキ大会



ウチナーギャグで大爆笑 琉神マブヤー

子どもから大人まで楽しんだ琉神マブヤーショーや、少し難解な問題も出題されたエコクイズ、紙飛行機飛ばし大会と、華やかに盛り上げりを見せたステージイベント。プログラムの最後を飾った古謝美佐子ステージでは、温かく語りかけるような歌声に会場は酔いしれ、時にはメロディーに合わせて手拍子を打ち、



あたたかな歌声で会場を優しくつつみこんだ古謝美佐子ステージ

辺土名高校吹奏楽部とのセッションでは、「ていんさぐめ花」と「童神」2曲を演奏し、優しいメロディーと歌声のハーモニーに、会場からは温かい拍手が送られました。古謝さんは曲の合間のトークで「この土地で、やんばるの木々に囲まれて歌えることがうれしい。木を切り、山を削ってつくったダムだけで、

多くの人が立ち上がり力チャージを踊る場面も見られました。

大宜味村にとっての大保ダムとは

大保ダムは県内で2番目に大きなダムとして、①洪水調節、②下流河川の適正な流量の確保、③水道用水の供給（県民の水瓶）といった3つの目的をもって建設されました。

ダムを作る過程で、失われた自然は当然としてありますが、ここ大保ダムは、ノグチゲラやヤンバルクイナをはじめとした貴重種が生息する自然環境に出来るだけ配慮した形で建設されました。水没した所から種や苗を取り、流域内の同様な環境に移植する取り組みなどが、現在も行われています。

大保ダムまつりは今後、毎年開催されます。村のPR事業としてまつりイベントを成功させ、盛り上げていくことはもちろんですが、大保ダムは地域の観光拠点の1つでもあることから、この日が、大宜味村に大保ダムがあることの意味を考える機会になっていけばいいのではないのでしょうか。

ここにはまだ多くの自然が残っている。今日のお客さんに、そして壊した自然に対して私の歌を届けたい」と熱い思いを語っていました。



古謝美佐子ステージ時の会場の様子

【平成21年度 決算に基づく健全化判断比率について】

平成21年度決算に基づき算定した地方公共団体の財政の健全化に関する法律(平成19年法律第94号)第3条第1項の健全化判断比率について、同項の規定により、次のとおり公表する。(単位:%)

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
健全化判断比率	—	—	11.4	—
早期健全化基準	15.00	20.00	25.0	350.0
財政再生基準	20.00	40.00	35.0	

備考:健全化判断比率のそれぞれの欄において「—」と表記されている場合は、赤字額がないこと、又は比率が算定されないことを表す。

算定方法

$$\text{実質赤字比率} = \frac{\text{一般会計等の実質赤字額}}{\text{標準財政規模}}$$

$$\text{連結実質赤字比率} = \frac{\text{連結実質赤字額}}{\text{標準財政規模}}$$

$$\text{実質公債費比率 (3ヵ年平均)} = \frac{(\text{地方債の元利償還金} + \text{準元利償還金}) - (\text{特定財源} + \text{元利償還金} \cdot \text{準元利償還金に係る基準財政需要額算入額})}{\text{標準財政規模} - (\text{元利償還金} \cdot \text{準元利償還金に係る基準財政需要額算入額})}$$

$$\text{将来負担比率} = \frac{\text{将来負担額} - (\text{充当可能基金額} + \text{特定財源見込額} + \text{地方債現在高等に係る基準財政需要額算入見込額})}{\text{標準財政規模} - (\text{元利償還金} \cdot \text{準元利償還金に係る基準財政需要額算入額})}$$

【平成21年度 決算に基づく資金不足比率について】

平成21年度決算に基づき算定した地方公共団体の財政の健全化に関する法律(平成19年法律第94号)第22条第2項の資金不足比率について、同条第1項の規定により、次のとおり公表する。(単位:%)

会計区分	資金不足比率	経営健全化基準
大宜味村簡易水道事業特別会計	—	20.0
大宜味村公共下水道事業特別会計	—	

備考:各会計の資金不足比率の欄において、「—」が表記されている場合は、資金不足が発生していないことを表す。

算定方法

$$\text{資金不足比率} = \frac{\text{資金の不足額}}{\text{事業の規模}}$$



沖繩総合事務局 竹沢局長が来村

沖繩総合事務局の竹沢正明局長は11月5日(金)、本村が取り組んでいる事業や施策についての意見交換と現地視察を行うため、村長室を訪問しました。

話し合いの場では、島袋義久村長や担当職員から村の現状と、それを踏まえた上での今後のビジョン、とりわけ「三大重点プロジェクト」や過疎計画についての説明がなされました。

竹沢局長からは、北部振興事業への要望の確認やシークワサー加工施設の状況など様々な質問があり、お互いに有意義な意見交換の場となりました。

村長室での話し合いを終えたあとは、結の浜の分譲予定地や長寿と癒しの森整備計画が予定されている大工又、大保ダムと場所を移動し、現地を確認しながら、説明を受けていました。

今回の意見交換について竹沢局長は「ゆっくり時間が取って話を聞くことが出来たので、自分の中で大宜味村が考えている施策に対するイメージを掴むことが出来た。来て良かった」と満足げな様子でした。



村の抱える課題や施策について話し合いました



現地に足を運び、職員の説明に耳を傾ける竹沢局長

赤土大根で生産販売協定 「販路拡大に向けて」

大宜味村と琉球ジャスコ(栗本建三社長)、村赤土大根生産組合(具志堅朝秀組合長)は11月8日(月)、赤土大根(青首)の販売拡大や村としてのブランド化を目標に掲げ、生産販売奨励協定を締結しました。琉球ジャスコと同様の締結をするのは、県内自治体では12例目とのこと。

調印式には、村職員や関係者らが出席し、島袋義久村長と栗本社長、具志堅組合長の三者が村役場で協定書に調印を行いました。本村では近年、大根の生産量が著しい伸びをみせ、今年には約150トンの販売を目標にしています。琉球ジャスコの青首大根取扱量は年間約700トンであり、今後は本村の割合が4分の1近くを占めることとなります。

島袋村長は「この機会を出発点として、生産者にとって大きな喜びと自信になればと思います。大宜味村としてのブランド化を図り、今回の戦略を皮切りに農業全体を活性化させ、沖繩一の赤土大根(青首)産地を目指して参ります」と抱負を述べました。



販路拡大に向けて協同した取り組みへ

北部三村議会連絡協議会

大宜味・国頭・東の三村の議員で構成する北部三村議会連絡協議会が11月4日(木)、やんばる野生生物保護センター(ウフギー自然館)で開催され、議員や関係者ら35名が出席しました。当協議会は、三村の共通課題の情報共有や議会議員相互の交流を目的として、毎年、持ち回りで行われるもので、今年度は大宜味村が事務局を担当しました。

今回、環境省の職員を講師に迎え、昨今メディアでも取り上げられることが多くなった「やんばるの国立公園化」について講演が行われました。説明を受けた議員からは「国立公園に指定されると地域に制限がかかるのではないか」といった懸念や、「どの範囲で区域が指定されるのか」といった質問が上がりました。



環境省職員の話真剣に聞く三村の議員ら

大宜味村蕎麦打ち体験教室 始まりました。

大宜味村耕作放棄地協議会(会長 新城寛)では、平成22年度事業として蕎麦打ち教室を取り組んでいます。耕作放棄地を利用して2ヶ月ほどで出荷できる蕎麦が将来村の特産品になるよう期待しています。

今回10名の方がチャレンジしています。大宜味村の蕎麦打ち名人が生まれると良いですね。



津波小学校100周年記念式典・祝賀会

大宜味村立津波小学校(比嘉孝子校長)の創立100周年記念式典・祝賀会が、11月7日(日)に同校で開催された。在校生やOB、PTA、教員、区長、津波校区民など、約300人が参加し、同校の100周年の節目を祝いました。

式典では、参加者全員が校歌を斉唱しました。比嘉孝子校長は「100周年を迎え、先人の努力に敬意を表したい。津波小では笑顔あふれる学校づくりに取り組んできました。心を新たに101年目へと力強い一歩を踏み出したい」と式辞を述べました。前田鐵憲期生会会長は「これまで輝かしい伝統を築き上げてきた先輩達の偉業を讃え、更なる津波小学校の発展を願います。」とあいさつしました。祝賀会では、児童による三線の演奏やエイサーの演舞、関係者による余興が披露され、会場は盛り上がりを見せていました。同窓生代表あいさつで、金城哲成さんは

「歴史の節目を迎えて」

「当時は現在の白浜公民館があった場所ので授業を受けていたのを覚えています。当時、子どもは重要な労働力で、学校は仕事から解放され自由に遊べる場でした。これからの子ども達が大きな夢を育んでいくことを期待しています。」と述べました。前津波区長の前田松雄さんは「今日の式典にたくさんの方が集まってくれてとてもうれい。盛大に開催でき、村民、関係者のみなさんに感謝しています。」と述べました。津波小6年の松田美佐紀さんは「自分達が100周年の時にいれたことを誇りに思います。100期生なので頑張っていきたいです。」と元氣よく話してくれました。祝賀会は予定時間を超えて盛り上がり、最後は参加者全員でカチャーシーを踊りフィナーレを迎えました。



式典に花を添えた津波小全児童によるエイサー



全児童で津波小100才を祝う



オール同窓生によるケンサンピン

第36回大宜味村老人婦人合同スポーツ大会

「村民が健康で明るく豊かな村をめざして」をテーマに、第36回大宜味村老人婦人合同スポーツ大会(主催 村老人クラブ連合会・村婦人連合会)が10月24日(日)、大宜味小学校グラウンドで開催され、選手や応援団など各字10チーム約500名が参加し、交流を深めながら心地よい汗を流しました。

老人会や婦人会だけではなく、子ども達や村青年会、那覇在住一心会役員も参加し、交流を深めました。その他大宜味中学校の生徒14名と、村社会福祉協議会に実習に来ていた名桜大学の学生9名がボランティア役員として加わり、大会運営に協力してくれました。

今年は、3年ぶりに種目として加わったゲートボール競争をはじめ、中学生や青年会にとってはあまり馴染みがなく慣れない手つきで取り組んだ縄ぬい競争、「老人会長の一番好きな食べ物」は「ゴーヤ」である。○「か×か」といったユニークな問題も出題され



「恋人さがし」。はにかみながら手をつなぎ仲良くゴールを目指す



島袋村長も「縄ぬい競争」に参加



ユニークな競技が盛りだくさん婦人会の「ありんくりんりれー」

た○×ゲーム、そして何より、参加者が一番心待ちにしていた「恋人さがし」など全18種目が行われました。恋人さがしには、村青年会や名桜大学生も参加し、「年の差カップル」の誕生や、特定のカードを引いたペアには、大当たり賞を設けるなど、例年以上に好評を博していました。

応援席のテントでは、競技を終えた選手に拍手が沸き起こり、太鼓をたたいて迎えるなど応援にも力が入っていました。

昼食時間を利用して、喜如嘉小学校獅子舞クラブ男女各2名による獅子舞の演舞が披露され、テントの前を獅子舞が通ると歓声が沸き起こり、力強い演技に参加者たちはおしみなない拍手を送っていました。獅子舞を演じた一人である金城直也君(喜如嘉小6年)は「おばあちゃんに演技を見てもらえたことと、多くの人が喜んでくれたことがうれしかった」と話してくれました。

第37回おおきぶふ展

小さな村の大きな展示会

村在住者や村出身者の芸術活動を発表する第37回おおきぶふ展(主催・村教育委員会、同運営員会)が10月31日から11月1日の両日、喜如嘉小学校体育館で開かれ、約230名の方が会場を訪れました。

展示会では、村内や村出身の芸術家の巧みな作品や、保育所児からお年寄りまで幅広い年齢層からの作品が展示されました。やんばる三村の夏を熱く盛り上げた2010美ら島沖縄総体ボート競技大会や、郷愁漂う大宜味村の歴史を感じさせる写真展、他にも芭蕉布や絵画、書道、陶器、木工、漆器、染織など全点がバラエティー豊かに展示され、見る人を惹きつけていました。

また、会場の一角には「木で何かを作ろう」と題して、使われなくなった木材を利用し、自分でアレンジを加え、木工作品に仕上げる特設コーナーが設けられ、訪れた子ども達は夢中になって作品をつくっていました。



昔の写真展をなつかしそうに見る来場者



木工作品づくりに夢中になる子どもたち

第15回しまんちゅ芸能の夕べ

薫り高き文化村

芸能活動に取り組む各種団体が日頃の練習の成果を披露し、地域の文化・芸能活動を推進していくこと、第15回しまんちゅ芸能の夕べ(主催・同実行委員会、村教育委員会)が11月13日(土)、村農村環境改善センターで開かれ、村内の幼稚園児からお年寄りまで10団体が日頃の練習の成果を披露しました。

会場には家族や知人の晴れ舞台をひと目見ようと大勢が詰め掛け、琉球舞踊や日本舞踊、大正琴など10演目の大宜味村の文化を満喫しました。

根保光枝琉舞練場大兼久教室の子どもたち10名が舞台袖から登場すると、そのかわいらしさに会場からは、手拍子が沸き起り、子どもたちは「海ぬちんぼらあ」を元氣いっぱい披露しました。他にも、やさしい音色で会場を温かい雰囲気包み込んだこもれびピアノ教室のピアノ演奏や、大宜味・大兼久の豊年祭の伝統的演目「こてい節」など来場者の目と耳を楽しませる催しとなりました。

平良宏教育長は「今回で15回目を数え、年々内容がすばらしくなっている。『芸は身を助く』という言葉があるように、これからも芸能活動に励んで欲しい」とあいさつし、島袋義久村長は「このイベントは、大宜味村では分らない人がいないほど浸透してきました。文化村としての大宜味村の誇りであります。先輩方が築き上げてきた芸能を継承し、新たに創りあげていくことで、村の芸能の輪がさらに広がっていくことと思います」と激励しました。



森川音楽教室・平良薫古典音楽研究所による「幕開け」



かわいらしさ溢れる「海ぬちんぼらあ」を披露



大宜味・大兼久豊年踊り「こてい節」

第29回塩屋区民運動会 区民の心は一つ

冬の訪れを感じさせる、涼しくもひんやりとした風が吹いた10月30日(土)、塩屋区(知念章区長 主催)による第29回塩屋区民運動会が、塩屋小学校グラウンドで開催され、子どもからお年寄りまで約400名の区民が参加し、交流を深めました。

普段は塩屋として一体となっている区が、この日は大川、塩屋、兼久前、兼久後の4つのボールに分かれ、トラック競技19種目、フィールド競技10種目を競いました。

プログラムには、釣り糸を空き缶にひっかけて持ち上げる「缶つり競争」や、箆を背負いボールを叩きつけて、その跳ね返りを箆に入れる「ティール玉入れ」など、ユニークな種目が多く、会場は終始笑いにつつまれていました。また、子どもたちのリレーでは、太鼓を叩き、拍手と歓声を送り、懸命に応援する姿が見られました。

日が暮れるまで熱戦が繰り広げられ、結果、島袋村長も参戦した大川ボールが優勝を手にしました。

塩屋区の知念章区長は「いろいろなことがありながらも、区の運動会が29回目を数え、継続してきた歴史の重みを感じる。保育所児から、老人婦人まで多数の参加があり、地域の皆さんが親睦をはかり、区民の絆を深めることが出来たことが何よりうれしい」と話してくれました。

運動会終了後には、各ボールに分かれて交流会を持ち、夜遅くまで楽しい宴が開かれ、さらなる親睦を深めました。



綱を引く方はもちろん、応援にも力が入る「綱引き競争」

お知らせ

暮らしに役立つ
情報コーナー

いざよみ インフォメーション

国民年金のメリット

日本に住んで20歳以上60歳未満のすべての方は、国民年金に加入して保険料を納めることとなります。「年金なんてまだまだ先のこと」と思われる方もいるかもしれませんが、国民年金には次のような様々なメリットがあります。

- ① 国民年金の老齢基礎年金は、2分の1（平成21年3月分までは3分の1）が国庫負担（税金）で賄われているため、支払った保険料を上回る給付を受けることができる計算となっています。厚生労働省の試算では、1985年生まれ（2005年に20歳）の方でも納めた保険料の1.7倍以上となります。
- ② 国民年金は、生きている限り年金が受け取れる一生涯の保障であり、老後の生活をサポートします。
- ③ 国民年金は老後の保障だけでなく、加入者がケガや病気により障害が残ったときは「障害基礎年金」に亡くなられたときにはその遺族に「遺族基礎年金」が支給されるなどあなたの生活をサポートします。
- ④ 納めた保険料は、確定申告の際に全額が「社会保険料控除」として認められています。
- ⑤ 貸金や物価の変動にあわせて、年金を支える力と給付のバランスをとる仕組みにより、年金額が改定されるため、年金に加入（20歳）してから年金を受給（65歳）するまでの間、経済社会が大きく変動したとしても、年金の価値が保証されます。

カンキツの苗を不用意に 持ち込まないで!!

カンキツグリーンング病は罹病樹の苗から村内にまん延します。カンキツグリーンング病に感染しているか否かは遺伝子分析をしないと分かりません。そのため、苗を園地や住宅の敷地などに持ち込む際は、事前に検査を行ってカンキツグリーンング病にかかっていることをきちんと確認する必要があります。特に、以下の場合は確認する必要があります。

1. 苗業者やホームセンターなどから購入した苗。
2. 住宅敷地内の庭などで育苗した苗。
3. 園地や住宅敷地内で栽培している樹から取り木や接ぎ木で増殖した苗。

カンキツグリーンング病の疑いのある苗を村内に入れたり増やしたりしないようにご理解ご協力お願いいたします。

苗の確認をしたい方はシークワサー振興室（44-3084）で検査を行っておりますのでご連絡よろしくお願致します。

大宜味村でカンキツグリーンング病を根絶するためには3つの原則があります。

- i 罹病樹と判明した樹は速やかに伐採する。
 - ii ミカンキジラミを防除して感染拡大を防ぐ。
 - iii 検査をしていない苗は持ち込まない。
- 以上の3原則を徹底することで大宜味村内のカンキツグリーンング病の根絶の道がみえてきます。

カンキツの責任産地である大宜味村が県内で1番初めにカンキツグリーンングの根絶を成功させるよう村民みんなの力ががんばりましょう!!



参考写真 ホームセンターで売られているシークワサー

平成23年度不発弾等探査 要望箇所調査について

沖縄県では、「広域探査発掘加速化事業」として、主に民間地の探査・発掘事業を実施し、不発弾等の早期処理に向け取り組んでいるところですが、今回は平成23年度で実施する探査・発掘箇所の選定のため調査であり、原則として平成23年10月下旬から平成24年3月末までに探査・発掘が可能な箇所を対象となります。大宜味村では下記のとおり要望者を募集しています。

- 募集期間：平成23年1月14日（金）まで
対象箇所：①②の条件をクリアしているものを対象とします。
- 1 探査予定面積が100㎡を超えること。
 - 2 地主及び小作人が不発弾等探査・発掘に同意していること。

募集先：大宜味村総務課
TEL 0980-4413001

※民間地であり、上記①②を満たしている場合は要望可能ですが、不発弾等が埋没している可能性の高い地域を優先に、緊急性、各地域のバランス、人口密度、公共施設等への隣接等を考慮し、予算の範囲内で探査・発掘事業を実施するため、要望したが探査を実施することができないこともありますので、ご了承ください。

※平成23年度内で探査・発掘箇所に選定された場合は、土地の調査終了後に探査を実施します。探査費用については、県の事業として実施されるため、個人負担は一切ありません。

事業に対するお問合わせ先

沖縄県知事公室防災危機管理課不発弾対策班
TEL 098-86612143

平成23年成人式

平成23年1月4日(火)

式典15:00(終了後)記念撮影・激励交歓会
大宜味村農村環境改善センター

成人に達した新しい門出の祝福と将来の幸福を村民全体で祝いたいと思います。

新成人者、御父兄並びに多くの村民のご参加を宜しくお願いします。



お問合せ先

大宜味村役場総務課 TEL 0980-44-3001

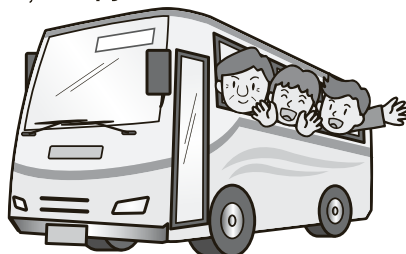
平成23年 村民新春の集い

平成23年(2011年)卯年の新年を迎え、多くの村民が一同に集い、この一年間健康で明るく過ごせることを願うとともに、融和と親睦を図り、新しい年を祝うため「平成23年村民新春の集い」を開催します。多くの村民の皆さまのご参加をお待ちしております。

日時 平成23年1月7日(金) 午後6時~7時30分

場所 大宜味村農村環境改善センター

会費 1,000円



※当日はバスでの送迎もありますので、詳しくは各公民館の掲示板をご覧ください。

年末・年始のゴミ収集 及び個人搬入について

● ゴミ収集業務について ●

年末 平成22年12月31日(金曜日)まで収集業務を行います。

年始 平成23年1月4日(火曜日)から収集業務を行います。

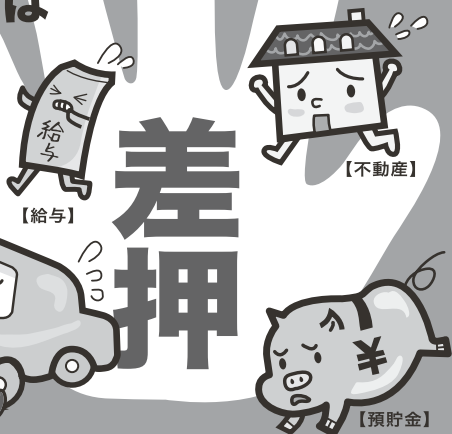
● 個人搬入の受入について ●

施設名	環境センター
受入ゴミ	燃えるゴミ
年末	平成22年12月28日(火曜日)まで
定休日	平成22年12月29日(水曜日)から 平成23年1月3日(月曜日)まで
年始	平成23年1月4日(火曜日)から

施設名	やんばる美化センター
受入ゴミ	粗大ゴミ
年末	平成22年12月28日(火曜日)まで
定休日	平成22年12月29日(水曜日)から 平成23年1月3日(月曜日)まで
年始	平成23年1月4日(火曜日)から

※各施設、上記受入ゴミ以外については、受入出来ません。

あなたは
悪質滞納者に
なっていないませんか?



県税・市町村税の納め忘れはありませんか?

沖縄県と県内41市町村は、税の公平・公正を確保するため、連携して全県一斉に徴収強化しています。滞納者に対し、財産の差押など滞納処分を集中的に行います。

県税・市町村税 11/1~12/31 滞納整理強化月間

沖縄県・那覇市・宜野湾市・石垣市・浦添市・名護市・糸満市・沖縄市・豊見城市・うるま市・宮古島市・南城市・国頭村・大宜味村・東村・今帰仁村・本部町・恩納村・宜野座村・金武町・伊江村・読谷村・嘉手納町・北谷町・北中城村・中城村・西原町・与那原町・南風原町・渡嘉敷村・産間味村・薬園村・渡名喜村・南大東村・北大東村・伊平座村・伊是名村・久米島町・八重瀬町・多良間村・竹富町・与那国町

役場庁舎に災害時 対応自販機設置

11月4日(木)、役場庁舎に沖縄ペプシビバレッジ株式会社の提供で、緊急時に飲料の提供が可能な救援機能を備えた飲料の自動販売機が設置されました。

災害時対応自販機は、平常時は普通の自動販売機として利用しますが、大規模災害が発生しライフラインが断たれた時に自動販売機内の飲料水最大約600本が無償提供できます。また、停電時にも対応できよう48時間稼働できる充電池が内蔵されています。



設置に伴い、同社と村は、災害時における飲料供給に関する協定を締結しました。

見えない道路は大変危険!!

大雨による道路冠水

大雨によって排水路などで排出できなくなった雨水が、側溝や下水(マンホール)から溢れるなどして、家屋が浸水したり、道路が冠水することがあります。

この中でも道路冠水は、側溝などの転落するおそれのある場所やマンホールの蓋が外れているのが見えなくなるなど大変危険です。10月22日には、うるま市で小学生が増水した側溝に流されるという痛ましい事故が起きています。冠水した場所にはできるだけ近づかないようにして下さい。

気象台は、浸水や道路冠水等のおそれがある場合には大雨警報(浸水害)や大雨注意報を公表して警戒を呼びかけます。



冠水すると、
どこが道路で、どこが側溝か、
まったく区別が付きません。

危険です!!

大雨警報・注意報が発表されたら…
どの市町村に発表されたか? 何に警戒、注意するのか?
沖縄気象台HPなどで確認して
防災に活用して下さい。

沖縄気象台HP <http://www.jma-net.go.jp/okinawa/>
または

最低賃金は、
暮らしの
支えです。

改定されました。
**沖縄県
最低賃金が**

沖縄県最低賃金額

642円時間額

発効日:平成22年11月5日

※特定の産業には特定(産業別)最低賃金が定められています。



必ずチェック最低賃金! 使用者も、労働者も

最低賃金制度とは、最低賃金法に基づき国が賃金の最低限度を定め、使用者は、その最低賃金額以上の賃金を支払わなければならないとする制度です。

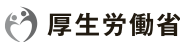
厚生労働省 ホームページアドレス <http://www.mhlw.go.jp/>

最低賃金に関する特設サイト <http://www.saiteichingin.info/>

最低賃金に関するお問い合わせは沖縄労働局又は最寄りの労働基準監督署へ

ウェブで最低賃金がチェックできます。

最低賃金制度



人権擁護委員 なんでも相談

相談は無料です。
相談内容の秘密は守ります。難しい手続きも不要です。

人権擁護委員は、あなたの街の相談パートナーです。

面接相談

日時 毎週 月・水・金曜日(祝日は除きます)
午前10時から午後4時まで

場所 那覇地方法務局名護支局
TEL 0980-52-2792

(名護バスターミナルから徒歩3分、裁判所向かい、名護地方合同庁舎2階)

電話相談

0980-54-2972

0980-52-2729

毎週 月・水・金曜日(祝日は除きます)
午前10時から午後4時まで

人権擁護委員は、法務大臣が委嘱した民間の人たちです。全国の各市町村に配置されています。

村の人口 10月末現在

男	1,719人	(±0)
女	1,640人	(+3)
計	3,359人	(+3)

世帯数 1,639世帯 (-9)
 出生 3人 転入 9人
 死亡 2人 転出 8人

※注()内数は対前月比

平成23年度村農業委員会選挙人名簿登録申請について

農業委員会委員選挙人名簿は申請に基づき、毎年1月1日現在で調製、3月31日に確定されます。

下記の要件を具備している者については、選挙人名簿に登録できますので申請の手続きを行ってください。

〈登録の要件 平成23年1月1日現在〉

1. 年齢が満20年以上の者(平成3年4月1日までに生まれた者)
 2. 10a以上の農地につき耕作の業務を営む者
 3. 2の者の同居の親族またはその配偶者
 4. 10a以上の農地につき耕作の業務を営む農業生産者法人の組合人、社員または株主
- ※3と4は年間おおむね60日以上、耕作に従事する者が条件です。

〈申請の方法〉

1. 各公民館にある「登録申請書」へ記入押印
2. 各区長へ1月7日(金)までに提出

(お問合せ先)

大宜味村選挙管理委員会 44-3001

満1歳お誕生日おめでとう!!

(タンカー祝い)

世界にたったひとつだけのスマイル!

輝く未来の
大宜味っ子!

明るく・元気で・
素直にすくすく育ってね



あつま
宮城 重磨 くん
(饒波出身)



いぶき
平良 芽楓 くん
(喜如嘉出身)



かなた
山城 海那太 くん
(白浜出身)



もあ
大城 桜愛 ちゃん
(塩屋出身)

12月12日 December 2011 January 1月10日

大宜味村カレンダー



1 水	◆区長会
2 木	◆塩屋・大宜味小学校修学旅行(〜3日)
3 金	◆大宜味中学校授業参観
4 土	
5 日	
6 月	
7 火	◆村生徒指導連絡協議会 ◆大宜味中学校修学旅行(〜10日)
8 水	
9 木	
10 金	
11 土	◆地区中学校新人総合体育大会(〜12日) ◆蕎麦打ち教室 午前10時 道の駅アリーナホール
12 日	
13 月	
14 火	
15 水	
16 木	◆体験の翼事前学習会
17 金	◆大宜味幼稚園生活発表会
18 土	◆蕎麦打ち教室 午前10時 道の駅アリーナホール
19 日	
20 月	◆家庭の日 ◆沖縄県市都対抗女子駅伝 ◆CGG運動
21 火	◆平成22年度年末・年始の交通安全県民運動 大宜味村シークワサー作戦

22 水	
23 木	天皇誕生日
24 金	◆幼稚園・小学校2学期終業式 ◆大宜味中後期前半終了 ◆行政・法律合同相談(13:30〜16:30)
25 土	
26 日	
27 月	
28 火	◆官公庁仕事納め
29 水	
30 木	
31 金	大晦日
1 月	January
1 土	元日
2 日	
3 月	
4 火	◆村成人式 ◆官公庁仕事始め
5 水	◆区長会
6 木	◆幼稚園・小学校3学期始業式 ◆大宜味中授業開始
7 金	◆塩屋保育所・喜如嘉保育所マラソン・駅伝大会 ◆村民新春の集い
8 土	
9 日	◆村駅伝大会
10 月	◆成人の日

※このカレンダーは予定ですので、都合により変更されることがあります。各業務については電話等で確認してください。

村内あれこれ



ソフトテニス部表敬訪問



県ソフトテニス大会で優秀な成績を修めたことを受けて、大宜味中学校ソフトテニス部と、きじょかーズ(喜如嘉小学校テニス部)が11月19日(金)、村長室を訪れました。大宜味中女子ソフトテニス部の主将を務める喜納理沙さんは「九州にはレベルの高い選手が多いので、たくさんいいプレーを盗んで、沖縄に持って帰れるようにしたい」と抱負を述べ、島袋村長からは「みなさんの頑張りが、村民にとっての喜びとなっています。村民を代表してお礼を申し上げます」と感謝と激励の言葉をかけました。両ソフトテニス部は、それぞれ県代表として九州大会に派遣。

津波小学校 タオルを寄贈



11月11日の「介護の日」を前に、津波小学校の児童は4日、村内の介護施設に役立ててもらおうと、家庭で未使用のタオル69枚を村社会福祉協議会へ贈りました。津波小学校6年の平良凜さんは、「赤い羽根募金や、タオルの寄贈、福祉活動を頑張っています。今年もみんなで使ってください。」とあいさつしました。

村社会福祉協議会の平良森雄会長は、「村内で最初に取り組んだのは津波小学校であり、県内でも早い取り組みであります。今週日曜日に津波小学校は100周年を迎えますが、これからもいい学校をつくっていくように頑張ってください。福祉の心を育てるといことは人間として成長します。大きくなって立派な社会人となってください。」と激励しました。寄贈されたタオルは小規模多機能ホーム「いっしん」で利用される予定です。

地域の魅力を再発見



恵まれた自然環境に位置するやんばる3村の地域資源をどのように保全し、活用していくのかを地元の人に考えてもらおうと「やんばる3村たまたま箱講座」が11月3日(水)、イギミハキンジョーから「創造の森」までをフィールドに行われ、三村から約40名が参加しました。

「石灰岩の森を歩く」をテーマにした今回は、NPO法人つばきの会をガイドとして迎え、沖縄でも珍しい石灰岩林を歩きながら、動植物や猪垣といった貴重な自然・文化を観察し、直接触れる機会となりました。

今回の講座に参加した瀬川ゆりみさん(大宜味)は「近くこんないい場所があることを初めて知った。民泊の受け入れもやっているのだから、ぜひ連れて来たい」と嬉しそうに話していました。

キラリおおきみ

村内の農業、畜産、水産等を頑張っている若い人々を紹介するコーナー

工房風琴(ふう)

名前 平山 ふさえさん

事業内容 芭蕉布



東京にある日本民芸展で芭蕉布と出会い、一目惚れしたという平山さん。沖縄への憧憬と、何かものづくりがしたいという思いが手を取り合い、沖縄へ。芭蕉布会館の門を叩き、11年間の修行で技術を身につけ、その後独立。現在は自宅で創作活動に励んでいる。

平山さんの作品は、伝統的な手法でつくる帯や、着尺(きじゃく)が主としたものだが、残った布を利用し、テーブルセンターやストラップといった小物を積極的に製作している。伝統的な作品だけでなく、日常生活で使えるものを作るのは「多くの人に芭蕉布を知って欲しい、そして身近に感じて欲しい」という思いがあるからだ。

太陽の恵みをいっぱい浴びた糸芭蕉を、手作りの道具、自然の染料を使い、人間が一から作るのが芭蕉布の魅力と話す平山さん。今後は、着付けを習い、自分の作品に袖を通してみたいという。芭蕉布に魅了され、関わり続けて今年で17年目。初めて芭蕉布に触れた当時の思いは未だ色褪せていない。

ツール・ド・おきなわ2010大会



「熱帯の花となれ、風となれ」をテーマとした第22回ツール・ド・おきなわが11月13、14日の両日、本島北部を中心に開催されました。本村では、1日目の沖縄本島一周サイクリングと2日目の男子チャンピオン200キロレースが行われ、選手らは国道58号を北上し、秋のやんばる路を駆け抜けました。沖縄本島一周サイクリングでは、約630人が参加し、道の駅で休憩する際、特産のシークワーサーのジュースや、サーターアンダギーでもてなしました。